



第3章 歴史資料・災害資料の保全・活用

吉川, 圭太
木村, 修二

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 20 (2021 (令和3) 年度事業報告書) :61

(Issue Date)

2022-03-28

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013439>



第3章

歴史資料・災害資料の保全・活用

歴史資料ネットワークへの協力・支援

1. 災害対応

歴史資料ネットワーク等と協力し、コロナ禍における資料保全・整理活用のあり方について検討した。

(文責・吉川圭太)

2. 神戸市兵庫区平野地区における活動

本年度も「奥平野古文書勉強会」が毎月1回(第2日曜)開催され、すべての例会で木村がチューターを行った(8月は休会)。なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年4月、5月、6月、2022年2月の例会が中止となった。

(文責・木村修二)

附属図書館震災文庫への協力

本学の都市安全研究センター「東北大学等との連携による震災復興、並びに災害科学分野における学術研究の支援経費」に基づき、災害資料学の実践的研究を附属図書館とともに行なった。

本年度は「第11回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会」(2022年2月14日、オンライン開催)を開催し、東日本・新潟の公立図書館及び大学図書館、国立国会図書館など16機関33名の参加を得た。東日本大震災

被災地における震災アーカイブ・ミュージアム施設をめぐる現状と課題、阪神・淡路大震災資料の研究活用の実践例などについて報告がなされ、全体で意見交換を行った。

また、株式会社サンテレビジョン撮影による阪神・淡路大震災関連映像の震災文庫への提供・公開にあたり、デジタルアーカイブ学会「肖像権ガイドライン」を参考に人文学研究科地域連携センターが映像内容を確認し、サンテレビ・震災文庫・地域連携センターの三者による研究会を定期開催し、公開に向けた議論を重ねた。これを踏まえ、2022年1月14日に震災文庫デジタルギャラリーにて98件の映像が公開された。このほか、附属図書館震災文庫と協力し、同文庫受け入れの未整理一次資料について、昨年度に引き続き目録作成を行い、公開のあり方などについて意見交換した。

(文責・吉川圭太)

人文学研究科古文書室の所蔵文書整理

今年度は事業として整理作業は行っていない。

(文責・木村修二)